

# 経済成長とともに勢いを増す新興国企業

Raku  
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am  
fund academy

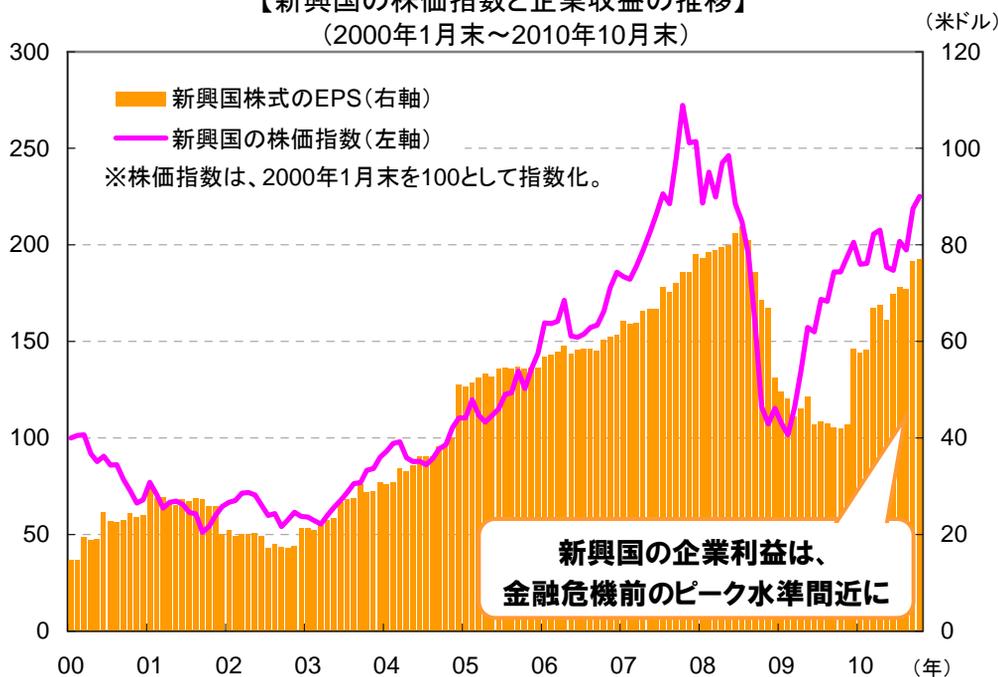
新興国が世界経済のけん引役といわれるようになり、政治・経済ともにその存在感は高まりを増しています。そして、この勢いは企業の収益面でも顕著となっています。

企業の利益水準を表す指標の一つであるEPS(1株当たり利益)を見ると、2000年以降、新興国の企業利益は総じて拡大傾向となっています。2008年～2009年にかけては、世界的な景気後退の影響を受けて大きな落ち込みも見られましたが、新興国の経済拡大が続いていることを背景に、その後は再び増加傾向となっており、足元での新興国企業の利益水準は、金融危機前のピーク水準近くまでに回復していることがわかります。

現在、技術革新や低コストなどを武器に世界で台頭する新興国企業は、製造業などを中心に増加傾向となっています。また、経済発展に伴う消費意欲の増大やインフラ整備拡大などによって、銀行やエネルギー、通信など生活基盤を支える内需関連企業の収益増につながっており、国内外での収益獲得をもとに、新興国企業自体の成長へ大きくつながっていると考えられます。

新興国の一部では、景気の過熱感を抑制するために金融引き締めを行なうことで、株価が軟調となる場面も見られますが、これは、持続的な経済成長を促すための手段であり、今後も新興国での堅調な経済成長見通しが予想されていることから、むしろ、経済実態の裏づけとなる企業収益がしっかりしているという点は、新興国投資の下支え材料になると考えられます。

【新興国の株価指数と企業収益の推移】  
(2000年1月末～2010年10月末)



新興国の企業利益は、  
金融危機前のピーク水準近くに

## EPS(1株当たり利益)とは

EPS(1株当たり利益)とは、企業純利益を発行済株式数で割ったもので、企業収益の水準をはかる投資指標の一つです。EPSが高いほど、収益性が高いといえることから、EPSの成長は、企業業績が拡大基調にあるといえます。



※上記は、MSCIエマージング指数(ドルベース)を使用しています。

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。